

# 人間

第 90 号

2026年 1月 1日発行

発行人

群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、  
ともに生きる会

発行責任者

酒井 宏 明

連絡先

大川 正治 電話 080-3203-4680

〒371-0037 群馬県前橋市上小出町 3-17-6

題 字

故 鈴木 幸次 (原告)

HPアドレス

<http://www12.wind.ne.jp/ikirukai/>

## 「らい予防法」廃止から三〇年 「国賠訴訟勝利」から二五年の年に

### ■新年のご挨拶

「ともに生きる会」会長

酒井宏明(群馬県議会議員)



新年あけましておめでとうござい  
ます。

昨年十一月一日に開催した「ともに  
生きる会総会」と「記念講演・コンサ  
ート」は、大変充実した有意義なもの

となりました。「参加できないが応援  
しているから」とカンパを寄せていた  
だいた方も大勢いらっしゃいました。総  
本にありがとうございました。総

会の成功は、皆さまのご協力とご尽  
力の賜物と、改めて深く感謝と敬意  
を表します。感想文もたくさん寄せ  
られました。フォークデュオ「ともい  
き」のコンサートは「すばらしかった」  
「涙なくして聞けなかった」と感動を  
呼びました。

ハンセン病家族訴訟の原告番号  
七五番さんは、国の誤った強制隔離  
政策によって家族がバラバラにされた  
上に、不当な差別を被ってきたとし  
て「失った家族との時間を返してほし  
い」と切々と語られました。どんなに  
悲しかったろう、どんなに苦しかった  
ろうと私自身、胸が締め付けられる  
思いがしました。「いわれなき差別と  
偏見が今も残っており、決して風化

させてはならない」と、勇気をもって  
発言されたことに心より感謝を申し  
上げます。

講演した国立ハンセン病資料館の  
内田博文館長は、菊池事件の再審無  
罪を勝ち取る重要性をはじめ、ハン  
セン病の歴史や差別と偏見克服の取  
り組みを自分ごととして語り伝えて  
ほしいと訴えました。

大川正治事務局長が報告したよう  
に、「会」ができて二六年。今は亡き  
銚雄二さんをはじめ、人間回復への  
たたかいに立ち上がった栗生楽泉園  
入所者・回復者の方々と一緒に活  
動できたことは幸運であり、光栄で  
した。しかし、高齢化が進み、二〇数  
人となった今、課題解決に残された  
時間はそう長くありません。入所者  
がいなくなった後の園の永続化と資  
料保存に向けた取り組みは喫緊の課  
題です。「ともに生きる会」として、入  
所者との交流を引き続き行っていく  
とともに、行政関係部局への働きか  
けをさらに強めていく決意です。

最後に、二〇一九年納骨堂の前に  
建立された「人権の碑」に刻まれた一  
節を紹介し、新年のご挨拶にかえさ